学力向上フロンティア事業中間報告書(平成１５年度)

（都道府県　東京都　私立）

Ⅰ．学校の概要（平成１５年４月現在）

私立　聖徳学園中学校					
	１年	２年	３年	計	教員数
学級数	４	５	４	１３	３１
生徒数	１３７	１７１	１４２	４５０	

[注]本校は中高一貫の共学校であり、上記の数字は中学の部分を示すものである。

Ⅱ．実践研究の概要

１．主題(テーマ)

「確かな学力」形成のための主体的な問題解決能力の育成並びに生徒の到達度に応じた教材開発

―自ら学び・考え・表現して問題解決をはかる生徒の育成―

２．内容と方法

(1) 実施学年・教科

① **中学１年・２年ＧＰ**［Guilford Practical Education］

アメリカの心理学者ギルフォード博士の知能構造理論に基づき、ギルフォード教育研究所などの指導助言を仰ぎながら知的能力全般を生徒の精神的な発展段階に応じて刺激することにより、物事を多角的に総合的に考える力を育成している。

② **中学１・２年数学**

生徒の理解度に差が出やすい教科であり、また、小学校での学習の定着度に大きな差が生じている。このため、学年同時展開による習熟度別授業を展開し、学習内容の定着を図っている。

また、生徒の理解度に応じた補完や発展的学習のために週 1 時間の ＭＴ(Mathematical Thinking)の授業を設けた。

③ **中学１・２年英語**

生徒の理解度に差が出やすい教科である。学年同時展開による習熟度別授業とネイティブの教員により中学３年まで週１時間の「英国言語」の授業を展開している。国際理解教育（研修旅行や留学）を推進し、また、長期休暇を利用して能力開発プロジェクトも実施し、発展的並びに補充的学習活動を充実させている。さらに、教員の資質の向上のために文部科学省の「英語が使える日本人育成のための戦略構想を受けて」夏季休暇中英語教員が外部の英語能力向上のための講習会に参加し、TOEFL も受験した。

④ **中学１・２年国語**

週１単位の「鑑賞創作」という科目を設け、生徒の興味や関心をさらに引き出し高められるよう、作文指導や表現活動の充実につとめている。本年度は週１単位の「素読」という科目を設けて、古今の名文を読む中で、生徒たちの興味・関心を増すようにしている。

⑤ **中１・中２における定期考査の月例診断化[年８回]**

本校は前期・後期の２期制をとっているため、定期考査を年４回実施していた。しかし、定期考査の間隔が長いため、生徒が十分な学習をしないまま定期考査に臨んだり、指導者が生徒のつまづきに気づくのが遅れる面があった。また、授業中の小テスト等の取り組みでは限界があった。

このため、定期考査を年８回実施し、短い間隔で確実に学習状況の確認ができるようにする。

⑥　中３・高１の連携の検討

本校高等学校も本年度より学力向上フロンティアハイスクールの指定を受けたことにより、中学・高等学校の連携も重要なテーマとなってきている。本年度においては中３と高１を対象としたノングレードの課外の講座の設置を推進する。

(2) 年次計画

①　平成１４年度

○テーマ	「能力育成」と「教材開発」（計画立案、目標設定、分析方法検討、育成・開発の予備的試行）
○仮　説	①　「知能構造診断」の結果の分析や活用により、ＧＰ(Guilford Practical Education)の授業を通じて形成される能力は高まる。 ②　習熟度別に個に応じたきめ細かい教材や指導により、基礎的基本的学習成果の定着が図れる。
○研究内容・方法	①　「知能構造診断」の予備的試行とＧＰとの相関分析方法検討を行う。 ②　習熟度別授業や個別指導の予備的試行と効果分析方法の検討を行う。 ③　独自教材開発計画の立案と予備的試行を行う。

②　平成１５年度

○テーマ	「能力育成」と「教材開発」（分析の予備的試行、育成・開発の本格的試行）
○仮　説	①　ＧＰ(Guilford Practical Education)の授業を通じて形成される能力と、実践研究教科の学習成果とには有意な相関がある。 ②　個の能力に応じた能力別教材や指導により、基礎的基本的学習成果の定着は向上する。 ③　定期考査をきめ細かく行うことで、生徒の学習定着度は高まり、また、そのつまづきを早期に発見することができる。
○研究内容・方法	①　「知能構造診断」の本格的試行とＧＰとの相関分析の予備的試行を行う。 ②　ＧＰと他の実践研究教科との相関分析方法検討と予備的試行を行う。 ③　習熟度別授業や個別指導の本格的試行と効果分析の予備的試行を行う。 ④　独自教材開発の本格的試行を行う。 ⑤　中１・中２については、定期考査を年８回の月例診断として実施する。 ■昨年度の計画に対して、月例診断の実施についての仮説・研究方法について内容を付加した。生徒の学力の定着を短いタームで見ることが必要であると昨年度の実践から考えたため。

③　平成１６年度

○テーマ　　「能力育成」と「教材開発」（分析の本格的試行と評価、育成・開発の継続的試行と評価）

○仮　説　　①　「知能構造診断」結果やＧＰ(Guilford Practical Education)の授業の活用により、実践研究教科の学習成果の定着は向上する。

②　個の能力に応じた能力別教材や指導により、発展的学習成果の定着が図れる。

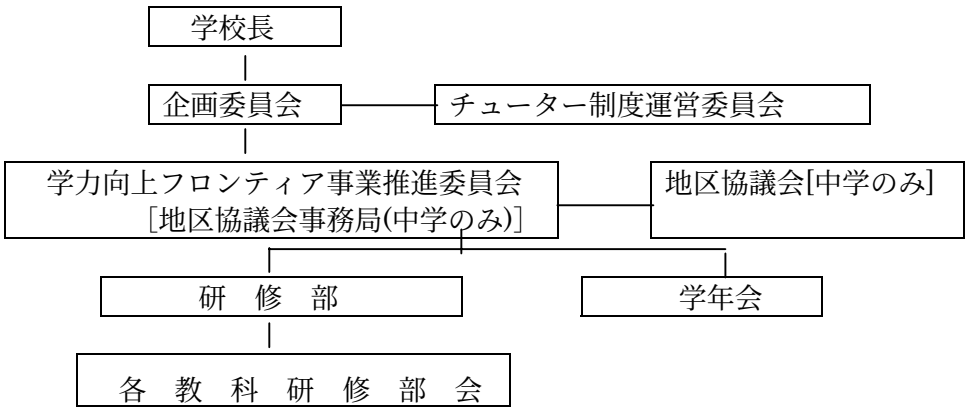
○研究内容・方法

①　「知能構造診断」の継続的試行と GP や実践研究教科との相関分析の本格的試行、及び評価を行う。

②　習熟度別授業や個別指導の継続的試行と効果分析の本格的試行、及び評価を行う。

③　独自教材開発の継続的試行と評価を行う。

(3) 研究体制



平成 15 年度聖徳学園中学高等学校　学力向上フロンティア事業　分掌表	
分掌名	役割・担当者
企画委員会	フロンティア事業全般の指揮監督
	学校長・事務長・藤尾教頭・伊藤教頭・庄子教頭・鈴木総務部長・上遠野教務部長・小林昭文研修部長・織原学年部長・知久生徒指導部長西岡学校評価入試検討委員会委員長
学力向上フロンティアスクール事業推進委員会	フロンティア事業実施の実務の調整
	◎小林昭研修部長・○足立国語Ⅰ研修部主任・大島総合科研修部主任・安藤国語Ⅱ研修部主任・山本数学科研修部主任・中里英語Ⅰ研修部主任・伊神英語Ⅱ研修部主任・佐々木地歴研修部主任・村上公民研修部主任・湊理科研修部主任・峯岸保健体育研修部主任　藤野芸術研修部主任　堀情報・技術家庭研修部主任
研修部	研修会の企画・印刷物の出版・公開授業、研究授業の実施
	◎小林昭・足立・大島・薄井・小池・新倉・齋藤・佐藤尚
総合科教科研修部会	ＧＰ(Guilford Practical Education)の研究
	◎大島・○池田真・西岡・稲垣・山崎・藤尾・山田博・高野・伊神・江草・藤田・楡井・池田真・齋藤・菊地・佐藤尚

	ＧＣ(Guilford Creativity Education)の研究 ◎伊藤正・○伊藤氏・増子・安藤・堀
国語Ⅰ教科研修部会	◎足立・○齋藤・文元・成田・新倉・立道・蒲池 池田将・稲垣・成田・藤田・
国語Ⅱ教科研修部会	◎安藤・○藤田・池田将・佐藤和・稲垣
英語Ⅰ教科研修部会	◎中里・○小池・小林昭・吉岡・小林勝・山田健・薄井・伊藤氏・ニューサム
英語Ⅱ教科研修部会	◎伊神・○西岡・山田博・米屋・藤戸・飯田・今井・大島・レナウ
数学科教科研修部会	◎山本・○楡井・久保田・藤尾・長田・長谷川・石井・柳沢・上遠野・宮崎・山崎・山崎
地歴教科研修部会	◎佐々木正・○佐藤尚・伊藤・中山・増子・飯塚・池田真・堀
公民教科研修部会	◎村上・堀・細木原
理科教科研修部会	◎湊・○江草・毛木・小松・佐藤茂・織原・荒木・山崎・佐藤祐・篠原
保健体育教科研修部会	◎峯岸・○内浦・権田・鈴木・庄子・金子・知久
芸術教科研修部会	◎藤野・○高野・安藤・関戸・佐々木喜・山田恵・蒲池
情報･技術家庭教科研修部会	◎堀・○和田・青木・菊地・田村卓
総合科教科研修部会	◎大島・池田真　各担当者
チューター制度運営委員会	課外のチューター制度の効果的な運営
	◎庄子・○西岡・伊藤

Ⅲ．平成 15 年度の成果及び課題

○　成果	
総合科	①　週２単位のＧＰ(Guilford Practical Education) という授業を実施、生徒たちの自ら物事を多角的に総合的に考える力を育成しにつとめた。 ②　「図形」「記号」･「概念」･「行動」の４つの領域を刺激するための教材の体系化に着手した。これにより、既存の数学・国語・英語・社会・理科・体育・道徳などの教科との連関性がより強まり、生徒に好影響を与えている。 ③　２名の教員によるチームティーチングの実施により、生徒の積極的な参加姿勢が育成されている。 ④　「学習構造診断」をギルフォード教育研究所の協力を得て実施した。 「学習構造診断」の分析をギルフォード教育研究所の協力を得て推進中である。 ⑤　各教科の教員が参加して、協力してＧＰの教材を作ることにより、いわゆる教科のセクショナリズムが排され、教員間の協力体制が深まり、学校全体として取り組む姿勢が作られた。
数学科	①　中学において習熟度別学習を実施した。 ②　週１単位の「ＭＴ」(Mathematical Thinking) 」(中１～中２)　という、発展的・補充的な両面を行う本校独自の科目を設置し、基礎的な計算演習や発展的な内容の学習等を行うようにした。

	③　発展的な学習のための独自教材の作成を夏休みに行い、昨年度に引き続き刊行している。→「Shotoku Mathematical Thinking text　2」 ④　生徒による自己評価書を作成して自分なりに問題点を考えさせるようにした。 ⑤　東京理科大学との共同研究を推進した→後述 ⑥　来年度からの「数学検定」の実施に向けての準備を行った。
英語科	①　週１単位の「英国言語」という授業において、日本人とネイティブ教員による指導を実施した。 ②　週５単位の「英語」の習熟度別授業の中２の一番上のクラスはネイティブ教員が担当し、英語検定に代わってＴＯＥＦＬなどにも挑戦させている。６００点を超える生徒が出ている。高等学校では全員がTOEFLを受験するようになっている。 ③　他の英語の授業にも、できるだけネイティブの教員が入り、日本人教員とともにＴＴを行う機会を設けている。冬休み後は、ニュージーランドの国立大学に進学した本校の卒業生が生徒をインターナショナル・チューターとして、指導の補助に参加している。 ④　夏休みには昨年度に引き続き、中学１・２年の希望者対象にネイティブ教員と過ごし、英語だけで生活をするEnglish Shower　Camp を実施した。 ⑤　学年末には英語暗唱大会、英語スピーチコンテストを実施する。 ⑥　英語検定等において上位の成績をとる者が増加している。中では英語検定１級の合格者を初め、準２級以上の合格者を出した。 ⑦　English in Action(文部科学省後援)のデモ・レッスンへの参加 ⑧　英語能力開発事業 発展的な学習として、希望者対象に「グローバルイングリッシュ」というインターネットとスクーリングによる英語力向上講座［６ケ月］を実施している。 また、冬休みにはカナダから２名の教員を招聘し、ダイレクトメソッドによる英語力向上集中講座［2 週間］を開講した。
国語科	①　中学１・２年において週１単位の「鑑賞創作」という本校独自の科目を設けている。昨年に引き続き、文法の確認や読書指導・作文の添削などに力を入れている。 ②　中学１・２年において週１単位の「素読」という本校独自の科目を新たに設けている。古今の名文や古典の素読などに力を入れている。 ③　百人一首の学習に取り組み、百人一首大会を開催する。 ④　「文章検定」実施へ向けての準備を行った。
その他	①　年８回の月例診断の実施[中学１年・中学２年] 定期考査を年８回実施し、短い範囲できちんと学習を定着させるようにした。 これに合わせて、各学年主催での早朝・放課後を利用した補習を実施した。また、生徒への自覚、保護者の理解を促すため、定期考査前に『学習の指針』、考査終了後には『月例診断の講評』を発行した。 ②　チューターによる学習会[土曜日] 本校の卒業生をチューターとして、英語・数学において土曜日の補習的な授業を実施

した。午前中は、成績不振の生徒の問題演習をサポートし、午後は生徒たちの質問に自由に答えることができる場としている。

③　リベラルアート・アカデミー[中学３年・高校１年対象]

中学と高校の橋渡しと、受験に対応した現世利益を求めるのではなく、幅広い教養身につけることを目標とする。放課後を利用して実施する。

１月から開設講座[14 講座]

□英語講読Ⅰ　□英語講読Ⅱ　□International Understandings

□English Speaking　□ドイツ語入門　□古典に親しむ　□評論入門

□数学演習Ⅰ[数Ⅰレベル] □数学演習Ⅱ[数Ⅱレベル]　□歴史学への招待

■国際理解論　■おもしろ実験講座　■環境論　(■は複数教員輪講形式で実施)

④　国際理解教育の推進

中学３年の国際研修旅行の対象地をこれまでのニュージーランドから多元化して、来年度からオーストラリア・カナダも対象地として生徒に選択させるようにして、その準備に着手する。

夏季の語学研修旅行について、これまでの中学３年・高校２年という学年での実施をとりやめ、必要とあれば本人の語学力に応じてどの学年でも参加できるようにする。来年度からは、語学力に応じて、イギリス・カナダ・ニュージーランド・アメリカの４つのコースを用意し、その準備に着手する。

○　課題

①　「知能構造診断」のデータを蓄積し有効にデータベースを活用していきたい。

②　ＧＰとの相関分析を始めるにあたり、測定や評価の方法について、ギルフォード教育研究所と十分な協議を行い、分析に臨みたい。

③　特に高等学校で本年度より試行的に実施している GC(Guilford Creativity Education）との連関を深めていきたい。

④　授業研修や公開授業を通し、習熟度別授業や個別指導の実践を更に深めていきたい。

⑤　独自に開発した教材の有効な活用を図り、学習効果をあげていきたい。

⑥　月例診断について、その効果を増すための事前・事後の指導の充実に着手したい。

⑦　課外を利用して個々の生徒の個性を伸ばす様々な機会を設けていきたい。

Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

(1) ＧＰに関する「学習構造診断」の実施

①ギルフォード教育研究所の協力により、「学習構造診断」を実施。

②中１については４月。中２は５月。中３については７月に実施。

③ギルフォード教育研究所の指導で分析を行う準備を実施。

(2) 学力考査試験の実施

①中１と中２については、９月と３月の２回、学力考査を国語・数学・英語・社会・理科の５教科で実施した。外部との比較で客観性を出すため、進研(進学研究会)の模擬試験を採用した。

②中３については、高校課程の内容についても学習をしているため、1 回目は９月に進研(進学研究会)の模擬試験、２月には河合塾主催の全統高１模試を受験させた。

③各担当者が講評を書き分析を行った。

④前年度との明確な差異については，断言できるだけのものはない。私学の場合、入学してくる生徒の質が入学試験の状況により、相当左右されるので、前年度との比較をもって全てが本年度の研究成果とは断定しかねる場合もある。

(3) 各種検定試験の実施

① 英語検定　６月と１０月と１月の年３回、本校を準会場として実施。

② ＴＯＥＦＬ　国際教育交換協議会日本代表部からも運営の助言指導を受ける。
英語能力の高いものを対象に９月に第１回としてＴＯＥＦＬ－ＩＴＰ（LEVEL 1）を実施。３月には第２回を実施。

③ 漢字検定　10 月と２月の年２回　本校を準会場として実施。

④ その他　来年度は数学検定・文章検定等の学内実施ができるように、実施にあたっての準備体制を整える。

(4) ベネッセとの協力によるスタディーサポートを実施準備

既存の進研の模擬試験と中高一貫のカリキュラムを実施している本校のカリキュラムの進度とでは異なる面があり、正確な学力の把握ができていない。全国的なレベルで中高一貫校を対象としたベネッセのスタディーサポートを試行的に実施する準備に着手し、学力とともに生徒の家庭学習の実態や生活状態等の総合的な把握を目指す。

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

(1) 地区協議会の実施

第１回　聖徳学園中学校地区協議会（２月 20 日［金］）第５回の公開授業も同時に実施。
東京都内の学力向上フロンティアスクール指定の中学校に案内を送付。
また、武蔵野市教育委員会を通じて、武蔵野市の公立小中学校に公開授業の開催をご連絡。

(2) 公開授業の実施

第１回　公開授業（４月 26 日［土］）　本校において
第２回　公開授業（６月 21 日［土］）　本校において
第３回　公開授業（10 月 25 日［土］）　本校において
第４回　公開授業（11 月 22 日［土］）　本校において
第５回　公開授業（２月 20 日［金］）　本校において

(3) 校内授業研修の実施

第１回　英語（7 月 2 日［水］）英語の習熟度別指導の展開について
英語科　薄井[A1 コース]・中里[C コース]
第２回　数学（７月８日［火］）数学の習熟度別指導の展開について
数学科　柳沢[B コース]・石井[C コース]

(4)　本校への訪問とフロンティアスクールの取組の視察

①　中野区教育委員会の視察と授業公開（3 月 7 日［金］）
中野区教育委員会委員長　野澤昭典先生、中野区教育長沼口昌弘先生ら中野区教育委員会の関係者 15 名の先生方が本校を訪問された。
②　愛知県小牧市教務主任会の視察（10 月 3 日［金］）
③　鹿児島県指宿市立北指宿中学校の視察訪問（1 月 7 日［金］）
④　長崎県大村市立萱瀬中学校の視察訪問（2 月 9 日［月］）
⑤　北海道別海町立上西春別中学校の視察訪問（2 月 12 日［木］）
⑥　宮城県河南町立河南東中学校の視察訪問（2 月 20 日［金］）
⑦　山形県河北町立河北中学校の視察訪問　（2 月 20 日［金］）
各学校とも、本校の特色ある教育であるＧＰ(Guilford Practical Education)の内容を中心にまた、２期制や年８回の月例診断等について意見を交換した。

(5)　海外との研究活動の推進

①　カリフォルニア州最優秀教師賞受賞教師団の訪問(6 月 27 日[金])
昨年度に引き続き 6 名の先生方が本校を訪問、子どもの力を伸ばす教育のあり方について意見を交換した。
②　中華人民共和国中等教育教師団の訪問(11 月 28 日[金])
財団法人ユネスコ・アジア文化センター主催「ACCU 国際教育交流事業」の一貫として中国の中等教育に携わる先生方 25 名が本校を訪問し、日本と中国の教育制度の違いや、生徒の創造性

を伸ばす教育のあり方について意見を交換した。

③　フルブライトメモリアル基金主催のマスターティーチャープログラムの研究校

アメリカのミズーリー州セントチャールズ市のハーディン中学校と１年間にわたって生物と環境に関する共同研究を開始した。本年 3 月に本校の教員がアメリカを訪問。6 月からは 6 週間にわたってアメリカの教員が本校に滞在し、共同研究を行う。その後は日米の生徒がテレビ会議システムを使って、共同研究を行う予定。

(6)　研究成果の公刊・紹介[対外的なもの]

①　英語の習熟度別指導の紹介

小林五郎「中学校英語　学力向上フロンティアスクールとしての実践－能力開発と習熟度別指導」(工藤文三編『教職研修 11 月号増刊　今日から始める習熟度指導の基礎基本』教育開発研究所　平成 15 年 11 月　pp.233-236)

(7) 外部での学力向上フロンティアスクールとしての講演［小林五郎 学校長］

①　東京理科大学第 45 回理数系教員のためのリフレッシュセミナー［3 月 27 日[水]

□　場　所　　東京理科大学神楽坂校舎

□　テーマ　「改定数学科カリキュラムの課題と提言－学力低下問題から学ぶ今後の指針－」

□　講　演　「中学校における学力向上フロンティアについて」［小林五郎 学校長］

②　宮城県気仙沼市立学力向上フロンティアスクール指定小中学校との交流（7 月 25 日［金］）

□　場　所　気仙沼市立気仙沼中学校

□　参　加　気仙沼市立気仙沼中学校・松岩中学校・松岩小学校との情報交換や相互理解

□　講　演　「確かな学力を育成する指導について」[小林五郎　学校長] 藤尾教頭同席

③　教育講演会（9 月 20 日［土］）

□ 場　所　あきる野ルピアホール

□ 講　演　「どうすれば子どもが伸びるのか～子どもを伸ばす家庭教育のすすめ」
[小林五郎　学校長]

(8) 東京理科大学数学研究会との数学教育に関する共同研究

平成 15 年度は、東京理科大学との共同で数学教育の研究を行った。当日は多くの数学教育の関係者が来校され、積極的な意見交換が行われた。

東京理科大数学科研究会共催　授業研究会[11 月 15 日(土)]の実施

□研究授業　「ＧＰ(Guilford Practical Education)の実践授業」
「ＭＴの実践授業」
「習熟度別クラスにおける数学Ⅰ・Ａの実践授業」

□基調講演　「学力を向上させる能力とは」知能教育国際学会会長　清水　驍先生

□研究協議　東京理科大学数学教育研究会会長長野東先生　東京理科大学教授　澤田利夫先生
北海道教育大学旭川分校助教授　久保良宏先生のご指導を受ける。

(9) 聖徳学園学力向上フロンティアスクールシンポジウムの開催

【１】　第３回学力向上フロンティアスクールシンポジュウム

① 日　　時　**8月29日[金]**　9:00～15:00

② 場　　所　武蔵野市スイングホール［武蔵境北口徒歩１分］

③ 研究発表　「学力向上フロンティアスクールの実践と課題について」
「英語教育課程の改善に向けて」
「夏季休業中の教育実践」
「本校の目指す研修旅行のあり方」

④ 基調講演　「21世紀における私学教育の役割」
元新潟大学教授・文部省初等中等教育局主任視学官　渡邊富美雄先生

【２】　第４回学力向上フロンティアスクールシンポジュウム

① 日　　時　**12月24日[金]**　9:00～15:00

② 場　　所　武蔵野市スイングホール［武蔵境北口徒歩１分］

③ 研究発表　「聖徳学園をとりまく現状と学力向上フロンティアスクールとしてなすべきこと」
「学力向上フロンティア校としての実践」
「アンケートから見た保護者の期待と願い」
「個性を伸ばす生徒指導の実践」

④ 基調講演　「技術倫理を中心として」
東京大学名誉教授　金沢工業大学副学長　堀　幸夫先生
「読解力・表現力・論理力講座の開発」
日本大学芸術学部講師　伊藤　氏貴先生

(10) 保護者への成果の普及

年４回「School Way」と題する冊子を発行。その中で学力向上フロンティアスクールとしての取り組みを毎回紹介している。このほか、「聖徳学園だより」を発行(ホームページでも閲覧可)し、学力向上フロンティア事業関係の行事について紹介している。

(11) ＰＴＡとの連携

ＰＴＡの定期委員会で「学校教育活動近況報告」の中で毎回取組の状況を報告し、広報誌「ぼだい樹」でも学力向上フロンティアスクールとしての取組を紹介している。また、地区協議会にはＰＴＡの代表者に参加していただいている。

(12) ホーム･ページの活用状況

① 『聖徳学園ホームページ』(http://www.shotoku.ed.jp/j&h_school/top.html)

② 『聖徳学園中学高等学校ニュース』(http://www5d.biglobe.ne.jp/~gtf/news/)

現在、上記２つのホームページで学力向上フロンティアスクールとしての取組の様子の紹介や公開授業の案内をしている。

(13) **出版物**（「中間報告書の内容に関する成果物等」として本報告書に添付したもの）

① 「Shotoku Education－Intelligence Exhibition 2003」(公開授業要項)

② 「平成 15 年度　学習の指針」(学年別学習指導事項　年 4～8 回発行)

ａ．平成 15 年度　第 6 回月例診断「学習の指針」第１・２学年

ｂ．平成 15 年度　第 6 回月例診断「月例診断の講評」第１・２学年

ｃ．平成 15 年度　2nd Stage 中間考査「学習の指針」第３・４学年

ｄ．平成 15 年度　2nd Stage 中間考査「中間考査」第３・４学年

③「フロンティアスクール」(平成 14 年度学力向上フロンティ事業報告書)

④「Shotoku Mathematical Thinking text　2」(数学科独自開発教材)

⑤「聖徳学園学力向上フロンティアスクール」(平成 15 年度公開授業･地区協議会案内)

⑥「THE SHOTOKU　School Life」(学校案内)

⑦「Guilford Creativity Education」(総合の教材)

⑧ 知能教育国際学会会長　清水　驍「学力を向上させる能力とは」(東京理科大学数学研究会・聖徳学園中学高等学校　共催講演会　資料)

⑨ 工藤文三編『教職研修 11 月号増刊　今日から始める習熟度指導の基礎基本』教育開発研究所　平成 15 年 11 月 (小林五郎「中学校英語　学力向上フロンティアスクールとしての実践－能力開発と習熟度別指導」所収)

(14) 本校の教育研究に対する反応について

ＧＰを中心とした本校の特色ある教育の実践は、昨年度、文部科学省初等中等教育局教育課程課「学力向上フロンティア特色ある取組事例集(平成 14 年度)」に取り上げられた。また、上記に記したように海外を含めて、多くの学校の来訪も受けている。また、日本教育新聞を初めとして各種のマスコミからの取材を受けている。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　　１４年度からの継続校

【学校規模】　　１３～１５学級

【指導体制】　　少人数指導　　Ｔ．Ｔによる指導

【研究教科】　　国語　　数学　　外国語

その他[総合]　ＧＰ(Guilford Practical Education)

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　無

以　上